

(5) 動物科学科

■ 喜 多 一 美
Kita, Kazumi



- ◇赴任：2006年
◇現職：教授（2015年3月～理事）
◇学位：農学博士（名古屋大学）
◇専門分野：動物栄養学
◇主な研究テーマ及び主な教育研究活動：
1. 高血糖動物における生体内糖化反応に関する研究
2. 未利用資源の家畜飼料原料化に関する研究
◇担当科目：
1. 動物科学総論（1年次，分担）
2. 飼料機能学（2年次）
3. 家畜飼養学（3年次）
4. 動物科学実験Ⅱ（3年次，分担）
5. 動物栄養生化学特論（大学院修士）
◇所属学会等：日本畜産学会，日本家禽学会，日本草地学会，日本分子生物学会，日本栄養・食糧学会，東北畜産学会，家畜栄養生理研究会
◇研究業績
A. 原著論文
(a)学術雑誌
1. Takahashi, N., Makino, R. and Kita, K. (2019) Plasma half-life of fructosyl-valine in the plasma of chickens. Journal of Poultry Science. 57(1): 63-66.
B. 国内学会発表
1. 瀧田千恵，喜多一美（2019）異なる炭水化物源摂取がニワトリ組織中のフルクトサミン3キナーゼ遺伝子発現に及ぼす影響. 日本家禽学会 2019 年度春季大会（2019 年），麻布大学.
2. 伊藤 謙，笹渡 翔，安部瑠利香，藤盛和子，渡邊翔太，鈴木健吾，朝山雄太，南 一郎，西向めぐみ，喜多一美（2019）大豆代替飼料原料としてのユーグレナの給与がニワトリの成長および腸管粘液に及ぼす効果. 日本家禽学会 2019 年度秋季大会（2019 年），岩手大学.
3. 川嶋夏輝，瀧田千恵，喜多一美（2019）アミノ酸アマドリ化合物がニワトリ胚由来筋管細胞におけるアミノ酸取り込みに及ぼす影響. 日本家禽学会 2019 年度秋季大会（2019 年），岩手大学.
4. 瀧田千恵，平川 祥，喜多一美（2019）異なるタンパク質源の摂取がニワトリ組織中のフルクトサミン3キナーゼ(FN3K)遺伝子発現に及ぼす影響. 第 42 回日本分子生物学会（2019 年），マリンメッセ福岡.

■ 佐 野 宏 明
Sano, Hiroaki



- ◇赴任：1992年
◇現職：教 授
◇学位：農学博士（東北大学）
◇専門分野：家畜栄養生理学
◇主な研究テーマ及び主な教育研究活動：
1. 反芻家畜における糖，タンパク質およびエネルギー代謝
2. 植物系バイオマスの機能性検索および飼料化
3. 反芻家畜のルーメン内メタン産生の制御
◇担当科目：
1. 生物学入門（1年次，分担）
2. 動物と環境（1年次，分担）
3. 動物科学総論（1年次，分担）
4. 動物栄養学Ⅱ（2年次）
5. 家畜生産生理学（3年次）
6. 動物科学実験Ⅱ（3年次，分担）
7. 動物代謝学特論（大学院修士）
◇所属学会等：日本畜産学会（理事，編集委員），東北畜産学会（評議員），家畜栄養生理研究会（評議員）
◇学会賞等：井上研究奨励賞（1986年），日本畜産学会奨励賞（1989年），日本畜産学会賞（1997年）
◇その他の主な活動： 岩手畜産技術連盟会員（世話人）
◇研究業績
A. 国内学会発表

1. 佐野宏明（2019）反芻家畜における糖・タンパク質代謝動態の研究. 第 69 回東北畜産学会山形大会特別講演，2019 年 8 月 27 日，山形市.
2. 小椋千早，相川 亮，五位渕弘樹，原田裕大，吉武可那子，佐野宏明（2019）成長段階の異なるヒツジにおける第一胃発酵性状および血漿グルコース・アミノ酸代謝に及ぼすグリセロール添加の影響. 日本畜産学会第 126 回大会，2019 年 9 月 17 日，岩手大学農学部.

■ 澤 井 健
Sawai, Ken



- ◇赴任：2007年
◇現職：教 授
◇学位：博士（農学）（岡山大学）
◇専門分野：動物生殖工学
◇主な研究テーマ及び主な教育研究活動：
1. 家畜初期胚の遺伝子発現制御機構に関する研究

2. 家畜初期胚の体外生産技術に関する研究

◇担当科目：

1. 動物発生学（2年次）
2. 動物生殖学（2年次）
3. 動物生殖学各論（3年次）
4. 家畜生殖技術論（3年次）
5. 動物科学実験Ⅱ（3年次）
6. 牧場実習（3年次）
7. 動物科学総論（1年次）
8. 動物生殖工学特論（大学院修士）

◇所属学会等：日本繁殖生物学会，日本畜産学会，日本分子生物学会，日本卵学会，Society for the Study of Reproduction

◇学会賞等：日本繁殖生物学会奨励賞

◇研究業績

A. 原著論文

(a)学術雑誌

1. Takahashi, K., Ross, P. J. and Sawai, K. (2019) The necessity of ZSCAN4 for preimplantation development and gene expression of bovine embryos. J. Reprod. Dev. 65: 319-326.
2. Emura, N., Takahashi, K., Saito, Y. and Sawai, K. (2019) The necessity of TEAD4 for early development and gene expression involved in differentiation in porcine embryos. J. Reprod. Dev. 65: 361-368.

B. 国際学会発表

1. Emura, N., Kusanagi, S., Saito, Y., Miura, R. and Sawai, K. (2019) Effect of fatty acids on early development of bovine preimplantation embryos. Society for the Study of Reproduction 52nd Annual Meeting, 18-21 July, San Jose, USA.
2. Saito, Y., Sasaki, A., Emura, N., Miura, R. and Sawai, K. (2019) Effect of downregulating AGO1 transcripts by RNA interference on early development of porcine embryos. Society for the Study of Reproduction 52nd Annual Meeting, 18-21 July, San Jose, USA.

C. 国内学会発表

1. 江村菜津子，齋藤ゆり子，三浦瑠璃，澤井 健 (2019) 体外発生培地へのTEAD4-YAP1複合体形成阻害剤添加がブタ初期胚の発生および組織分化関連因子発現におよぼす影響. 第112回日本繁殖生物学会講演要旨：j76.
2. 三浦瑠璃，江村菜津子，齋藤ゆり子，澤井 健 (2019) SOX2発現の人為的抑制がブタ初期胚

の発生におよぼす影響. 第112回日本繁殖生物学会講演要旨：j114.

3. 齋藤ゆり子，江村菜津子，三浦瑠璃，澤井 健 (2019) DROSHA発現抑制がブタ初期胚の遺伝子発現におよぼす影響. 第112回日本繁殖生物学会講演要旨：j117.

4. 江村菜津子，齋藤ゆり子，三浦瑠璃，澤井 健 (2019) 細胞極性関連因子PARD6Bがブタ初期胚の発生および組織分化関連遺伝子発現におよぼす影響. 第126回日本畜産学会講演要旨集：104.

■ 築 城 幹 典
Tsuiki, Mikinori



◇赴任：1997年

◇現職：教 授

◇学位：博士（農学）（京都大学）

◇専門分野：草地生態学

◇主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 飼料生産における環境影響の定量的評価
2. リモートセンシングを用いた草地環境の評価
3. 草地における放射性物質動態の解明

◇担当科目：

1. 動物科学総論（1年次，分担）
2. 生物統計学（1年次）
3. 畜産環境評価論（3年次）
4. 動物科学実験Ⅱ（3年次，分担）
5. 草地学（3年次）
6. 草地学特論（大学院修士）
7. 実践統計学（連合農学研究科）

◇所属学会等：日本草地学会（副会長），システム農学会（会長），日本分類学会

◇他大学講師・客員研究員等：北里大学獣医畜産学部非常勤講師（草地生態学特論，植物生態学特論），京都大学農学研究科非常勤講師（応用生物科学特別講義Ⅰ）

◇その他の主な活動：岩手県原発放射線影響対策アドバイザー，岩手県農業研究センター試験研究推進アドバイザー

◇研究業績

A. 原著論文

(a)学術雑誌

1. 佐々木勇麻，折笠貴寛，渡邊高志，椎名武夫，築城幹典，小出章二 (2019) LCA手法に基づく乾燥キャベツ製造工程における環境影響評価－ブランチング処理に伴う環境負荷低減の可能性－. 日本LCA学会誌15(2)：174-187.

2. Riera, A. and Tsuiki, M. (2019) The Estimation of Nitrogen Balance from Agricultural Activities in Ecuador. Journal of Agricultural Development Studies 30(2): 63-69.

(b) プロシーディングス

1. Tsuiki, M. (2019) Radioactive cesium and potassium cycle model in Japanese grassland. Proceedings of the 5th International Conference on Environmental Radioactivity, September 9-13, P333.
2. Tsuiki, M., Matsumura, R. and Tarumi, E. (2020) Machine learning approaches to detect weed invasion to grasslands by UAV-based RGB imagery. Proceedings of the International Workshop on Improving Nitrogen Use Efficiency in Dairy Farming System through Crop-Livestock Integration.

B. 国際学会発表

1. Tsuiki, M. (2019) Radioactive cesium and potassium cycle model in Japanese grassland. Proceedings of the 5th International Conference on Environmental Radioactivity, September 9-13, P333.
2. Tsuiki, M., Matsumura, R. and Tarumi, E. (2020) Machine learning approaches to detect weed invasion to grasslands by UAV-based RGB imagery. Proceedings of the International Workshop on Improving Nitrogen Use Efficiency in Dairy Farming System through Crop-Livestock Integration.

C. 国内学会発表

1. 樽見恵梨奈, 築城幹典, 森 昭憲 (2020) 温暖化に伴う寒地型牧草の最適草種分布の変化, 日草誌 66 (別): p. 16.
2. 築城幹典, 野澤はるか, 判田玲奈, 樽見恵梨奈 (2020) 牧草地におけるカリウム循環モデル, 日草誌 66 (別): p. 66.

■ 小 田 伸 一
Oda, Shinichi



◇赴任：1994年

◇現職：准教授

◇学位：農学博士（東北大学）

◇専門分野：動物栄養生理学, 動物栄養機能学

◇主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 反芻動物の栄養機能と白血球機能
2. 反芻動物の血漿抗酸化活性と白血球機能

◇担当科目：

1. 動物栄養学 I（2年次）

2. 動物科学実験 I（2年次, 分担）
3. 動物科学総論（1年次, 分担）
4. 基礎生物学実験（1年次, 分担）
5. 動物栄養生理学特論（大学院修士）
6. 人の暮らしと生物環境（全学1年次, 分担）
7. 環境マネジメントと岩手大学（全学1年次, 分担）
8. 愛玩動物栄養学（3年次）

◇所属学会等：日本畜産学会, 東北畜産学会, 日本ペット栄養学会, 日本乳房炎研究会

◇研究業績

A. 国内学会発表

1. 木村ちはる, 沖津和男, 鈴木雄晃, 倉島ちなみ, 板橋 葵, 小田伸一 (2019) ヒツジの保定ストレスが血漿抗酸化活性に与える影響. 日本畜産学会第 126 回大会講演要旨: pp. 113.
2. 沖津和男, 木村ちはる, 小田伸一, 板橋 葵, 倉島ちなみ (2019) ヒツジへのアスコルビン酸投与による血漿抗酸化活性動態. 日本畜産学会第 126 回大会講演要旨: pp. 113.
3. 小田伸一, 鈴木雄晃 (2019) ヒツジ血漿抗酸化活性とアスコルビン酸および尿酸の機能. 日本畜産学会第 126 回大会講演要旨: pp. 113.

■ 出 口 善 隆
Deguchi, Yoshitaka



◇赴任：2002年

◇現職：准教授

◇学位：博士（農学）（東北大学）

◇専門分野：応用動物行動学

◇主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 野生動物の行動管理
2. 展示動物の行動管理
3. 牛の行動管理

◇担当科目：

1. 動物管理学（2年次）
2. 動物行動学（3年次）
3. 動物科学総論（1年次, 分担）
4. 動物科学実験 I（2年次, 分担）
5. 牧場実習（3年次, 分担）
6. 基礎生物学実験（1年次, 分担）
7. 科学英語（3年次, 分担）
8. インターンシップ（1～4年次）
9. 人の暮らしと生物環境（1年次, 分担）
10. 動物管理学特論（大学院修士）
11. グローバル環境科学特論（大学院修士, 分担）

◇所属学会等：日本畜産学会，動物の行動と管理学会，東北畜産学会，日本哺乳類学会

◇研究業績

A. 総説・論説

1. 出口善隆 (2019) ツキノワグマ(*Ursus thibetanus*)による飼料作物被害—東北地方の事例—。日草誌, 65:44-50.

B. 原著論文

(a)学術雑誌

1. Tamura, T., Okubo, Y., Deguchi, Y., Koshikawa, S., Takahashi, M., Chida, Y. and Okada, K. (2019) Dairy cattle behavior classifications based on decision tree learning using 3-axis-neck-mounted accelerometers. Anim. Sci. J.90:589-596.
2. Sasaki, J., Uehara, M., Sato, I., Satoh, H., Deguchi, Y., Chida, H., Natsuhori, M., Murata, T., Ochiai, K., Otani, K., Okada, K. and Ito, N. (2019) Pathological characteristics of thyroid glands from Japanese Black cattle living in the restricted area of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. Anim. Sci. J. 90:1333-1339.

C. 国内学会発表

1. Murata, M., Shimano, C., Yoshida, N., Koda, N. and Deguchi, Y. (2019) Factors affecting dog behaviors during animal-assisted activities. 日本動物心理学会第 79 回大会.

■ 西 向 めぐみ

Nishimukai, Megumi



◇赴任：2013年

◇現職：准教授

◇学位：博士（農学）（北海道大学）

◇専門分野：動物生理学

◇主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 機能性リン脂質の役割に関する基盤的研究

◇担当科目：

1. 動物生理学Ⅰ（2年次）
2. 動物生理学Ⅱ（2年次）
3. 動物生理学特論（大学院修士）
4. 動物科学実験（2年次，分担）
5. 生命のしくみ（全学1年次，分担）
6. 動物科学総論（1年次，分担）
7. 動物と環境（全学1年次，分担）

◇所属学会等：日本農芸化学会，日本栄養・食糧学会，日本脂質栄養学会，日本脂質生化学会，日本畜産学会，

日本油化学会

◇研究業績

A. 国際学会発表

1. Daisuke Mikami, Shota Sakai, Kohei Yuyama, Megumi Nishimukai, Yasuyuki Igarashi (2019) Lipidomic analysis of long chain base absorption into lymph fluid using lymph cannulated rat. 60th International Conference on the Bioscience of Lipids (ICBL).

B. 国内学会発表

1. 西向めぐみ，川上 環，山崎裕也，杉山 梢，滋野浩一，原 博 (2019) リリンパカニューレションラットにおけるアルキル型リン脂質のクラスの違いによるリンパ吸収動態の解析. 第 73 回 日本栄養・食糧学会大会要旨集.
2. 藤盛和子，鈴木卓弥，西向めぐみ (2019) Glycero- and sphingo-phospholipid differ in their effects on the function of the tight junction in human epidermal keratinocyte. 日本畜産学会第 126 回大会.
3. 伊藤 謙，笹渡 翔，安部瑠利香，藤盛和子，渡邊翔太，鈴木健吾，朝山雄太，南 一郎，西向めぐみ，喜多一美 (2019) 大豆代替飼料原料としてのユーグレナの給与がニワトリの成長および腸管粘液に及ぼす効果. 日本家禽学会 2019 年度秋季大会.
4. 岩本学拓，伊東明乃，西向めぐみ，山田美和，柏木明子 (2019) 大腸菌内における放線菌由来ホスホリパーゼ D の可溶化と精製. 日本生物工学会北日本支部 2019 札幌シンポジウム.
5. 藤盛和子，山崎裕也，杉山 梢，滋野浩一，原 博，西向めぐみ (2019) エーテル型リン脂質の変換部位の探索. 第 10 回 機能油脂懇話会.
6. 金濱 晶，西向めぐみ，柏木明子，杉森大助，山田美和 (2019) 偏性嫌気性菌 *Selenomonas ruminantium* の大量培養条件検討とエーテル型リン脂質の合成. 日本農芸化学会東北支部第 154 回大会.
7. 庄司智彦，渡邊菜々，山崎裕也，杉山 梢，滋野浩一，西向めぐみ (2019) アトピー性皮膚炎モデルマウスにおいてアルキル型リン脂質摂取による皮膚バリア機能への影響とエーテル型リン脂質の動態. 日本栄養・食糧学会東北支部第 53 回大会.
8. 平 彩花，山崎裕也，杉山 梢，滋野浩一，原 博，西向めぐみ (2019) リオキアミ由来脂質の摂取

形態の違いが体内エーテル型リン脂質に及ぼす影響. 日本栄養・食糧学会 東北支部第 53 回大会.

9. 岩波梨花, 西向めぐみ (2019) アデニン誘導型慢性腎臓病モデルマウスにおける体内エーテル型リン脂質の変動. 日本栄養・食糧学会東北支部第 53 回大会.
10. 伊藤 謙, 佐藤勝祥, 渡邊 潤, 横尾正樹, 藤盛和子, 西向めぐみ (2019) ニワトリ腸管における Wnt シグナルの制御. 第 42 回日本分子生物学会年会.
11. 沢里克宏, 平野絵里香, 西向めぐみ, 西山賢一 (2020) 生体膜に化学物質に対する耐性度を与える因子の探索. 第 2 回細胞形成研究会
12. 金濱 晶, 柏木明子, 山田美和, 西向めぐみ (2020) ラットにおける *Selenomonas ruminantium* 由来プラスマローゲンのリンパ吸収動態. 日本農芸化学会 2020 年度大会.

■ 松 原 和 衛
Matsubara, Kazuei



◇赴任：1996年

◇現職：准教授

◇学位：博士（農学）

（岩手大学大学院連合農学研究科）

◇専門分野：動物育種・生殖学, 生殖免疫学, 実験動物学

◇主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 超早期妊娠因子（Super-EPF）に関する研究
2. 始原生殖細胞（PGC）に関する研究
3. 野生動物に関する研究

◇担当科目：

1. 動物科学実験Ⅰ（動物科学2年次, 分担）
2. 動物遺伝育種学（動物科学2年次）
3. 動物遺伝育種学特論（大学院修士）
4. 生命のしくみ（教養教育1年次, 分担）
5. 動物科学総論（動物科学1年次, 分担）
6. 家畜育種学（動物科学3年次）
7. 実験動物学概論（動物科学1年次）

◇所属学会等：日本繁殖生物学会, 日本生殖免疫学会（評議員, 編集委員）, 日本野生動物医学会, 日本卵子学会（評議員）, 日本生殖医学会, 日本家禽学会, 日本生殖発生医学会（評議員）

◇学会賞等：東北畜産学会賞学術賞（1995年）, 日本家禽臨床学会会長賞（2010年）, The Journal of Poultry

Science優秀論文賞（2012年）

◇研究業績

A. 原著論文

(a)学術雑誌

1. K. Matsubara, S. Akaogi, S. Nakamura, T. Tujimoto and N. Nakamura (2019) Characteristics of olfactory organs in sika deer (*Cervus nippon*). Jap. J. Zoo. Wildl. Med. 24: 115-122.

B. 国内学会発表

1. 中村啓哉, 松原和衛 (2019) 添加血清がマウス培養始原生殖細胞の走化性に及ぼす影響. 第 64 回日本生殖医学会学術講演会・総会プログラム, 日本生殖医学会雑誌 64: pp.193.
2. 松原和衛, 片平睦子, 中村啓哉, 横尾正樹 (2019) 超早期妊娠因子 ELISA によるウシの妊娠診断と ELISA に使用する抗体の胚の反応部位. 第 64 回日本生殖医学会学術講演会・総会プログラム, 日本生殖医学会雑誌 64: pp.312.
3. 岩崎節子, 片平睦子, 中村啓也, 平田統一, 松原和衛 (2019) 早期妊娠診断のためのウシ超早期妊娠因子モノクローナル抗体を用いた ELISA の開発. J. Reprod. Dev. 65 (Suppl), 第 112 回日本繁殖生物学会大会講演要旨掲載号: pp.j132.
4. 中村啓哉, 中谷友紀, 岩川 岳, アボット リンモエ, 安野 航, 若井 淳, 松原和衛 (2019) FBS 添加はマウス培養始原生殖細胞の遊走を抑制する. J. Reprod. Dev. 65 (Suppl), 第 112 回日本繁殖生物学会大会講演要旨掲載号: pp.j127.
5. 中野風子, 中村啓哉, 谷藤広志, 松原和衛 (2019) レチノイン酸添加がニワトリ始原生殖細胞の SSEA-1 発現に与える影響. J. Reprod. Dev. 65 (Suppl), 第 112 回日本繁殖生物学会大会講演要旨掲載号: pp.j124.
6. 門岡 憲, 鈴木幸太, 岩崎節子, 片平睦子, 中村啓哉, 平田統一, 松原和衛 (2019) ウシ超早期妊娠因子 IgG のウシ IVF 胚に対する反応. J. Reprod. Dev. 65 (Suppl), 第 112 回日本繁殖生物学会大会講演要旨掲載号: pp.j131.
7. 岩川 岳, 中谷友紀, 中野風子, 中村 啓, 谷藤広志, 松原和衛 (2019) 異種間移植したマウス PGCs の移動能の検討. J. Reprod. Dev. 65 (Suppl), 第 112 回日本繁殖生物学会大会講演要旨掲載号: pp.j125.
8. アボット リンモエ, 中野風子, 中村啓哉, 佐々木邦明, 谷藤広志, 松原和衛 (2019) 各種の血清添加がニワトリ始原生殖細胞に与える影響. J.

- Reprord. Dev. 6 (Suppl), 第 112 回日本繁殖生物学会大会講演要旨掲載: pp.j126.
9. 片平睦子, 岩崎節子, 中村啓哉, 平田統一, 松原和衛 (2019) ウシ超早期妊娠因子モノクローナル抗体の作出. J. Reprord. Dev. 65 (Suppl), 第 112 回日本繁殖生物学会大会講演要旨掲載号: pp.j133.
 10. 中野風子, 中村啓哉, 伊藤 謙, 力丸宗弘, 谷藤広志, 松原和衛 (2019) ニワトリ精巣における SSEA-1 の発現. 日本家禽学会誌 56 (秋季大会号): pp.2.
 11. 中谷友紀, 中村啓哉, 安野 航, 若井 淳, 斎藤靖史, 松原和衛 (2019) 始原生殖細胞の血管新生能力. 第 57 回東北生殖医学会総会・学術講演会プログラム・講演抄録集: pp16.
 12. 中村啓哉, 中谷友紀, 岩川 岳, アボット リンモエ, 佐藤芙優, 安野 航, 若井 淳, 松原和衛 (2019) マウス始原生殖細胞の走化性に及ぼす FBS 添加の効果. 第 57 回東北生殖医学会総会・学術講演会プログラム・講演抄録集: pp15.
 13. 中村啓哉, 中野風子, 中谷友紀, アボット リンモエ, 岩川 岳, 佐藤芙優, 安野 航, 若井 淳, 松原和衛 (2020) マウスとニワトリの雄性生殖細胞における SSEA-1 発現の差異. 日本生殖発生医学会第 15 回学術集会プログラム: pp22.

■ 村 元 隆 行

Muramoto, Takayuki



◇赴任: 2006年

◇現職: 准教授

◇学位: 博士 (農学) (新潟大学)

◇専門分野: 動物資源利用学, 食肉科学

◇主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 日本短角種の筋肉の理化学特性に関する研究
2. 野生動物の筋肉の理化学特性に関する研究
3. 筋肉の非破壊分析に関する研究

◇担当科目:

1. 動物科学総論 (1年次, 分担)
2. 情報基礎 (1年次, 分担)
3. 基礎生物学実験 (1年次, 分担)
4. 動物科学実験 I (2年次, 分担)
5. 動物資源利用学 I (3年次)
6. 動物資源利用学 II (3年次)
7. 動物資源利用学特論 (大学院修士)

◇所属学会等: 日本畜産学会, 日本食肉研究会, 日本短

角種研究会, Asian-Australasian Association of Animal Production Societies, 東北畜産学会, 日本調理科学会
◇学会賞等: 日本畜産学会奨励賞 (2001年)

◇研究業績

A. 原著論文

(a)学術雑誌

1. 高田颯帆, 片山寛則, 村元隆行 (2019) 早生, 中生, および晩生のイワテヤマナシの果汁への浸漬が牛肉の硬さに及ぼす影響. 日本畜産学会報, 90: 147-151.
2. 金谷圭太, 福田智歩, 村元隆行 (2019) 塩漬剤としての4種類のミネラルの添加量の違いが日本短角種牛肉の保水性及びテクスチャー特性に及ぼす影響. 日本畜産学会報, 90: 321-325.
3. 西山萌乃, 村元隆行 (2020) 着弾から内臓摘出までの時間が冬季に捕殺された野生ホンシュウジカの鹿肉品質に及ぼす影響. 東北畜産学会報, 69: 33-41.

B. その他

1. 村元隆行 (2020) もりおか短角牛フェア 2020 (記者発表・テレビ放映・新聞掲載).

C. 報告書・事業報告書

1. 村元隆行 (2019) 捕獲手法・止め刺し手法等によるイノシシ・シカ肉の品質分析 (イノシシ・シカ肉の理化学的特徴の分析). 生産性革命プロ単年度研究成果報告書 (農林水産省), K.3. (1-2) 1-4.
2. 吉田英生, 村元隆行 (2020) 熟度の異なるサルナシの果汁が日本短角種牛肉のテクスチャー特性および保水性に及ぼす影響. 2019 年度地域課題解決プログラム報告書, 13.
3. 佐々木貴広, 村元隆行 (2020) CAS 冷凍がブロイラーおよび地鶏の筋肉の理化学特性およびうま味成分濃度に及ぼす影響. CAS 冷凍がブロイラーおよび地鶏の筋肉の理化学特性およびうま味成分濃度に及ぼす影響に関する研究の報告書, 1-20.

D. 国内学会発表

1. 鎌田丈弘, 阿保洋一, 木村祐介, 平泉真吾, 村元隆行 (2019) 青森県内における黒毛和種の体尺値および枝肉形質が牛肉のテクスチャー特性に及ぼす影響. 第 68 回東北畜産学会大会号: 26.
2. 中井瑞歩, 西山萌乃, 鈴木結子, 村元隆行 (2019) 鹿挽肉に添加した NaCl の含量が鹿肉ソーセージのテクスチャー特性および保水性に及ぼす影響. 日本畜産学会第 126 回大会講演要旨: 83.

3. 金谷圭太, 川村 周, 福田智歩, 大内田泰之, 横田朋佳, 村元隆行 (2019) 塩漬剤としての4種類のミネラルの添加量の違いが日本短角種牛肉の保水性及びテクスチャー特性に及ぼす影響. 日本畜産学会第 126 回大会講演要旨: 83.
4. 渡辺亮平, 米内美晴, 鎌田丈弘, 横田朋佳, 石松朝輝, 村元隆行 (2019) 接触型電極を用いたインピーダンス測定による黒毛和種8筋肉の脂肪酸組成の推定. 日本畜産学会第 126 回大会講演要旨: 88.

